

Step 5 渡航までの手続き

渡航するまでには、どのような準備や手続きが必要でしょうか。出発ギリギリになって慌てないように早めに行動を始め、手続きにゆとりを持つことをおすすめします。



滞在先

主な滞在先として、寮、ホームステイ、アパート、シェアフラット、シェアハウスがあります。留学先の学校から宿泊施設の情報を入手できることが多いです。寮はいっぱいになってしまうと入れないので、早めに申し込みましょう。アパートなどを自分で探す場合は、契約内容を理解できる語学力と、現地での不動産賃貸に関する基礎的な知識が必要です。シェアスタイルの住居は、現地での口コミ、ウェブサイトなどから探すことができます。

留学前に滞在先を確保することがベストですが、現地到着後自分で滞在先を探す場合は、ホテルなどを予約しておき、学校が始まるまでに滞在先を決められると安心です。



航空券

渡航時期や航空会社、予約・キャンセル条件などにより、運賃は大きく変わります。ビザ申請時に航空券予約確認書のコピーを提出しなければならない国・地域がある一方、ビザが発給されてから航空券を購入するよう勧めている国・地域もあるので、条件に合う航空券をタイミングよく購入しましょう。



パスポート(旅券)

各地方自治体の旅券窓口やオンラインで申請の手続きをします。申請から受領までに、通常 1 週間程度かかります。学生ビザや滞在許可の申請時、入国審査時に、パスポートの残存有効期間が一定期間以上あることを求める国・地域が多いため、有効期間が十分に残っていることを確認してください。



ビザ(査証)の申請

留学の場合は、事前に「学生ビザ」を取得する場合と、入国後に移民局などに滞在許可を申請する場合があります。ビザを取得するために必要な書類、手続き方法は国・地域により異なります。必ず日本にある大使館・総領事館に直接問い合わせ、最新情報を確認してください。

学生ビザ申請に必要な書類

- 申請書
- パスポート
- 入学許可書
- 財政能力証明書(預金残高証明書・学費支払証明書など)

国・地域によって必要なもの

- 健康診断書
- 航空券予約確認書のコピー
- 戸籍謄(抄)本、住民票
- 滞在先(宿泊先)証明書
- 保険加入証明書
- 犯罪経歴証明書
- 保証人による保証書
- 留学の理由書・志望動機書
- 語学能力証明書
- 卒業(在学)証明書
- 成績証明書

*上記の書類に、駐日外国領事による認証(「領事認証」、大使館などが指定する団体による現地語訳、外務省による証明(「アポスティーユ」または「公印確認」)などを求められることがあります。「アポスティーユ」は用語集 P.94 を参照。



役所の手続き

日本を1年以上離れる場合、市区町村役場で海外転出届を提出しなければなりません。それにともない国民健康保険は脱退、国民年金は加入義務がなくなり、日本国内にいない期間の住民税の支払いも不要になります。ただし、国民年金は任意で加入することができます。任意加入しておけば、将来の年金支給額は減額されず、資格喪失期間内に病気やけがをして障害を負っても障害基礎年金の請求ができます。転出届を出さず、国民健康保険に引き続き加入している場合、海外でかかった医療費は一定の条件を満たせば、帰国後の請求手続きにより適用の範囲内で払い戻しを受けることができます。マイナンバーカードは所定の手続きをすることで国外転出後も継続して利用することが可能です。

予防接種

出願時、入学時、渡航時に特定の予防接種の接種証明書を求められることがあります。自分の身を守るという観点からも、留学先に応じて必要な予防接種は受けておくと安心です。厚生労働省検疫所ウェブサイト「FORTH」で確認したうえで、時間に余裕をもって接種を受けましょう。



保険

出発前に日本の留学保険に入る

保険会社が、海外旅行保険を長期滞在者にアレンジした留学保険を販売しています。保険料、補償範囲、補償額、緊急時の対応は保険会社により異なるため、よく比較、検討して、自分に合った保険を選びましょう。

留学先で現地の保険に入る

国・地域や学校によっては保険加入の義務があり、特定の補償内容を持つ保険でなければ入学許可やビザが下りません。現地の保険に入る必要がある場合は、日本の留学保険と二重で加入するか、日本で短期の海外旅行保険に加入して渡航したうえで、留学先で現地の保険に入るとよいでしょう。留学先の保険が適用になるまで、保険のない期間ができないように注意してください。

お金

紛失・盗難などの可能性を考慮し、複数の方法でお金を管理しましょう。

- 現金 (到着後、当面必要な額)
- クレジットカード
- デビットカード
- プリペイドカード
- 海外送金
- 現地の銀行口座

長期留学の場合は、現地で銀行口座を開くと便利です。海外からの送金を受けられるだけでなく、為替レートの変動やATM利用手数料を気にする必要がありません。留学先の学校が提携している銀行がある場合、口座が開設しやすいです。

通信アイテム

現地で携帯電話／SIMカードを購入する

端末とSIMカードをセットで購入する方法と、日本からSIMフリーの携帯電話を持っていきSIMカードのみを購入する方法があります。

日本から携帯電話を持参する

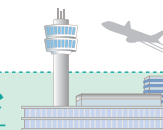
日本で使っていた携帯をそのまま使いたい場合は、国際ローミングサービスを利用できます。ただし、費用が高額なので長期留学には向きません。滞在先にインターネット環境がない場合や、日本から持参した携帯電話でインターネットを使用したい場合は、モバイルWi-Fiルーターの利用を検討しましょう。

日本でレンタルしていく

事前に必ず使用可能地域を確認しましょう。レンタルサービスを提供している会社は複数ありますが、価格だけで選ぶと繋がりが悪かったり使い勝手が悪かったりすることもあるので、サービス内容をよく調べたうえで比較、検討してください。



到着空港での手続き



Step 1 Immigration

出入国カードや税関申告書の提出が必要な国や地域に入国する人は、飛行機から降りる前に、入国の目的、滞在期間、持ち物などを申告書に記入します。

空港に到着したら...

どこへ向かうか？

- 入国審査カウンターへ

どんな審査をするのか？

- パスポートの審査
- 入国の目的、滞在期間などの質問（英語または現地の言葉で）
- 指紋認証や写真撮影を行う場合もある。

※対応に手助けが必要な場合は、留学先の緊急連絡先に電話をすることも可能です。

Step 2 Baggage Claim & Customs

Baggage Claim (荷物受け取り所) で、便名が表示されたターンテーブルから出発空港で預けた荷物を受け取ります。

- ターンテーブルに荷物がない場合は、カウンターで引換証を見せて、探してもらう。
- 申告をする荷物がある際には、税関で処理。申告するものがなくても、持ち物検査をされる場合がある。

Step 3 Transfer

空港から滞在先への移動に関して出発前に確認すること

空港での出迎えがある場合：

- 誰が迎えに来るのか
- 待ち合わせ場所はどこか
- 空港に到着した時に確認できる顔写真、住所、連絡先

各自で移動する場合：

- 滞在先までの安全な移動方法（※大荷物での徒歩による長距離移動・夜の移動を避けること）
- 空港に到着後、滞在先に連絡すること
- 夜の到着の場合：空港の近くのホテルでの宿泊も検討すること

(参考：JCSOS「海外留学危機管理ハンドブック」)



海外の空港では、荷物を開けられたり、日本より乱暴に扱われる時もあるから、その時は焦らずに！割れ物はちゃんと包んでおくと良いよ。